技術基準の例

一般高圧ガス保安規則（昭和 41 年通商産業省令第 53 号）

➤ 第 6 条第 1 項第 5 号（定置式製造設備に係る技術上の基準）

可燃性ガスの貯槽（貯蔵能力が 300 m³立又は 3,000kg 以上のものに限る。以下この号において同じ。）は、その外面から他の可燃性ガス又は酸素の貯槽に対し、1m 又は当該貯槽及び他の可燃性ガス若しくは酸素の貯槽の最大直径の和の 4 分の 1 のいずれか大なるものに等しい距離以上の距離を有すること。ただし、防火上及び消火上有効な措置を講じた場合は、この限りでない。（※）

※例示基準では、防火上及び消火上有効な措置について、「可燃性ガスの貯槽から他の可燃性ガス又は酸素の貯槽との間に規定の距離を有することの代替として講じる防火上及び消火上有効な措置は、次の各号の基準によるものとする。」として、貯槽の全表面に均一的に放射できる水噴霧装置、散水装置又は消火栓を設けることができるとされている。

危険物規制に関する政令（昭和 34 年政令第 306 号）

➤ 第 9 条第 1 項第 2 号（製造所の基準）

危険物を取り扱う建築物その他の工作物（危険物を移送するための配管その他これに準ずる工作物を除く。）の周囲に、次の表に掲げる区分に応じそれぞれ同表に定める幅の空地进行を保有すること。ただし、総務省令で定めるところにより、防火上有効な隔壁を設けたときは、この限りでない。